

今回の問題は難しかったですね。いや～ホント難しかった。決して解けなかったから言ってヘンコンではいけませんよ。さて「難しかったね～」だけでは、済まされないのだから「何が難しいのか」、「どうすれば読めるようになるのか」について考察してみたいと思います。

出典 Advice for a young investigator Santiago Ramon y Cajal 著から抜粋引用 一部改変)

何が難しいのか？分量は適度、設問は適切である。

1 一文づつが長い 文の構造が見えにくい 一文が三行程度はざらで五～六行になるものがある。しかも省略、同格、列挙、倒置など特殊構文が多い。

2 単語に抽象語が多い

3 内容があまりに抽象的・比喩的である(ネイティブの先生二人も「米国の大学生でも読んですぐわかる人は少ないのではないか?」と言っていた)

対策(難しさに対応させて考えると)

1 特に列挙、同格、カンマなどの使い方を習熟する。(あまり学校で強調しない分野)

2 単語は、受験単語問題集 DB5500 レベルを超えていないので、対策可能である。

3 これが一番問題である。正直に告白すると私もスキミングしたときは、何を言っているのか皆目検討がつかなかった。どうやって内容がわかるようになったかと言うと、(正直に告白しますと)設問の日本語を手がかりにして、この文章は一体、何を述べたい文章か、何度か考えたあと、英文の内容が頭に入るようになった。特に抽象的な語や文は、具体的な事物を思い浮かべながら「こういうことを言いたいんじゃないか」と確認しながら進めた。また後で気がついたのだが、出典のタイトルを先に読んでおけば、かなり理解が進んだものと思う。

英文読解に必要なスキーマ(状況設定) 簡単に言うと、「何の話題か」を知ることが必要である。そのために、利用できる情報はすべて、出典に記された小さな文字のタイトルや、設問の日本語や英語をよく見て考えることがこういう場合には特に大事である。(と反省しました)

難解な問題の場合は想像力をたくましく!

パラグラフの要点

(第1パラブラフ)

偉大な知性の仕事への過度の賞賛は、研究を志すものが陥りやすい最も不幸な先入観の1つである。まだ能力が開花する前だというのに、解決できないというのは言うまでもなく、特定の問題に攻め込むことはできないという確信もまたその1つである。

(第2パラブラフ)

天才に対して尊敬しすぎるとするのは、確かに褒めてもいい公平感や、尊敬しすぎだと、とがめるのが難しい謙遜さに基づいている(ここのnotが不要)。しかし、そのこと(尊敬しすぎ)が初学者の心に最初に浮かぶと、それは進取の精神を鈍らせ、独創的な研究の妨げになる。欠点も比較の問題である。傲慢さは謙遜よりも好ましく、大胆さは力量をしめし、またそれは人より勝ることもあれば、そうでない場合には、克服されるものだ。過度の謙遜は論争を避け、恥ずべき無活動として責められる。

(第3パラブラフ)

天才の著作を読む間に吸収される文章のごまかしの雰囲気から逃れ、面白いアイディアに基づいた観察を確かめるために研究室に入れば、自信が生まれるに従って徐々に英雄崇拝は衰えるものだ。偉大な人物は時として天才であるかも知れないが、時として子ども程度のこともあり、常に不完全である。天才の仕事が批判的分析を受け、何ら誤りが見いだされない時でさえ、その天才が特定分野で発見したすべてのことは、これから発見されために残っていることに比べたら、無に等しいということに気がつくことは大きなことである。自然は誰に対しても無尽蔵の財産を提供してくれている。先人をうらやむことは無理もないことである。またフィリップとの勝利の後でアレキサンダー大王とともに、「私の父は征服するために、私を一人にしておくだろう」と叫ぶのも無理のないことである。

(第4パラブラフ)

もちろん、科学のある概念はとて、完全で、輝かしく、永久的に思われるので、それらはほとんど神がかり直感力の結果だと思われるかも知れない。ジュピターの頭からミネルバが完全にわき出たように。しかし、そうした実績に対する真に値する賞賛は、かなり減じるであろう。もし我々が最後の成功を生み出すために協調して働いた時間、忍耐、根気強さ、試行錯誤、訂正、あるいは不幸でさえも、そのすべてを知るならば、そしてこうしたことは発見者の才能と同様に多に貢献しているのである。

同じ原理が人間の器官が前もって決定された機能へ適用したという驚くべき適応にもあてはまる。個別に調べると、脊椎動物の目や耳は驚嘆の源である。これらの器官が単に自然法則の作用によって形成されたであろうとは考えられないように思われる。しかし、系統発生の連続に見られるすべての変異形や遷移形を考慮すると、繊毛虫類や虫のほとんど形をなさない目のような輪郭から低い段階の脊椎動物の複雑な組織に至るまで、我々の賞賛は消えてしまうだろうし、また私たちの心は、変異、生物相関、自然淘汰、適応などのメカニズムを通しての自然に形成されたという考えを受け入れやすくなる。

(第5パラブラフ)

もし、指導者が、過去の偉大な業績の高尚さで彼(=若い研究者)を驚かせたりがっかりさせる代わりに、それぞれの科学的発見の源やその発見に先行する一連の試行錯誤を、それらは人間の観点からすれば、発見の正確な説明に不可欠な情報であるのだが、明らかにしてくれるのであれば、若い研究者に

とっては何というすてきな激励であるだろうか。こうした巧みな教育学上やり方は発見者は、優れた才能と決断力を持った有名な人であると同時に他の皆と同様によく調べてみれば普通の人間であるという確信をしみ込ませるであろう。

設問１ （１）と（２）に適当な英単語１語を入れよ。

答え discovered, alone

問２ 下線部 と を和訳せよ。

下線部参照

問３ 点線部 の意味するところを具体的に日本語で述べよ。

（解答例）

立派な業績や発見もよく調べてみれば、膨大な苦労がある。これと同様に前もって決定されたように見える人間のすばらしい諸器官も、実は自然淘汰などの自然の法則に従っているに過ぎないということ述べている。

問４ 下線部 の英訳

（解答例）

It seems that these organs would not be formed simply by the effects of natural formation.

問５ ２重下線部の（ア）～（オ）の not あるいは no で不要なものはどれか。２つ選べ。

（イ）と（オ）

問６ 研究を志す者が陥りやすい危険性とはどんなものか。日本語で説明せよ。

（解答例）第１パラグラフの２点を述べる。

問７ 指導者は研究を志す者にどのようなアドバイスを与えたらよいと思われるか。日本語で説明せよ。

（解答例）第５パラグラフの最初のセンテンスを書くこと。

著者について

著者は１９０６年にノーベル賞を受賞した神経科学者・解剖学者。基本的な業績は１８８８年から１９１３年に行われている。とネットに出ていました。